

【開催報告】

2回にわたり防災に関する講座を開催！

1月30日開催 地域連絡会（1回目）

1月30日の地域連絡会では、ジョージ防災研究所の小野修平さんをお招きし、主に地域で備える防災や避難所運営に関して、能登半島地震のボランティアに赴き、避難所運営を行った経験談を交えてお話を聞いていただきました。

パワーポイントのスライドに能登半島地震の被害状況を写した写真や映像を投影しながら、能登半島で起こったこと、住民主体で進められた避難所運営、災害対策として一番必要なことは「心身健康」であり、その

去る、令和7年1月30日と2月18日に、第3回、第4回学園西町地区地域連絡会が中央公民館講座室2にて開催されました。今回は学園東町との合同で行い、講師の方をお呼びし、防災に関する講座を行いました。

地域で備えるための防災講座

ためにも「コミュニティの維持」が重要であることなどのお話をしていただきました。

学園西町地区
地域連絡会だより

第24号
発行：小平市役所
地域振興部
市民協働・男女
参画推進課
電話：042-346-9532
協力：学園西町会



1月30日講座の様子

質疑応答での主な質問と回答

- （質問、以下（質））
輪島市の旧門前町地区の人口と耐震化率はいくつか。建物はほとんど潰れてしまったのか。
- （回答、以下（回））
人口は約4600人。耐震化率は令和元年のデータで、耐震不十分が54%である。建物がほとんど潰れた、ということはない。
- （質）能登半島地震により火事は発生したか。
- （回）輪島市の朝市通りで起きた火災が一番規模として大きい。
- （質）発災時に最初に避難所を開設するのは誰か。
- （回）小平市では、各小中学校に緊急初動要員の職員がおり、避難所開設に従事する。
- （質）台湾地震では、現地の避難所運営が世界的に評価されているが、具体的な取組等教えてほしい。
- （回）国としての制度などが日本と台湾では異なることから、同様な取組を行うことは難しいが、違いを知ることは大切である。

地域連絡会とは

地域自治を進めるには、地域内の横の連携をより密にして、地域が一つにまとまる必要があります。地域の各団体が、地域に関わるそれぞれの情報を持ち寄り、地域の課題を発見し、その解決に向けて取り組むことが求められます。そのために、地域の意向を踏まえ、地域の様々な団体が集まる場として「地域連絡会」を設け、それぞれの役割についての理解を深め、地域に関わる情報を共有しながら、地域課題についての共通の認識を持つよう努めております。

地域連絡会は、地域団体以外の方でも、どなたでも参加できます。原則、事前の申込みは必要ありませんので、ご近所の方とお誘いあわせのうえ、ご参加ください。

（※講習会等を行う場合は、事前に人数の把握が必要となりますので、申し込み制とさせていただきます。）

講師

ジョージ防災研究所

小野修平さん



平成28年より防災アドバイザーの活動を開始。これまで、数多くの講演会や防災対策支援を行っている。

その傍ら、能登半島地震等で災害支援活動に従事し、避難所運営支援や被災障害者支援、行政支援、個別支援、地域コミュニティ支援などに関わっている。

2月18日開催 地域連絡会（2回目）

地域の課題を地域で 解決するための自治防災

2月18日に行われた今年度2回目の地域連絡会では、一般社団法人日本防災教育訓練センター代表理事のサニー カミヤさんに、「地域の課題を地域で解決するための自治防災」のテーマで、講座をしていただきました。

災害に対して「想定内を増やして、想定外を減らす」ために、今から行うべき行動や準備についてお話を伺いました。

講座の中では、東京都から各家庭に配布されている冊子「東京くらし防災」について触れる場面や、大規模地震対策を考える時間として、真夏と真冬、昼間と深夜、自宅と外出中など異なるシチュエーションに対しての身の守りや行動の仕方などを考えるワークも行いました。

地震や水害だけでなく、火山の噴火や宇宙天気引き起こす災害など多岐にわたる災害の被害想定や、対策などもお話をいただきました。



2月18日講座の様子

質疑応答での主な質問と回答

・（質問、以下（質））

避難者の心身の健康を保つために、有効な運動等は何があるか。

（回答、以下（回））

ラジオ体操がよい。ラジオ体操を完璧に出来なくても少しでも動くことができればよい。また、同じ地域で育った誰かと話す機会があることも有効である。

・（質）

能登半島地震で遠隔避難をした方はどうなったか。

（回）

家族のもとに遠隔避難した方も、友達がいらない、言葉（方言）が違いう、などのストレスがたまり、被災地に戻る人もいる。

・（質）

災害についての情報を集めるデジタルのツールは「キキクル」の他にあるか。

（回）

1番良いのは「NERV防災」である。このアプリ1つあれば他のものはいらぬ。信頼があり情報が早い。気象庁の職員も使用している。

あと、小平市のX（旧Twitter）やFacebookをフォローしておくのも有効である。住んでいる地域の情報が直接入って来るようにすることである。



学園西町地区地域連絡会 参加団体

学園西町会
民生委員・児童委員
地域包括支援センター・小川ホーム
小平市国際交流協会
小平市社会福祉協議会
小平市民活動支援センターあすぴあ
市民協働・男女参画推進課（事務局）
（順不同・敬称略）



〈講師〉

一般社団法人日本防災教育訓練センター 代表理事
サニー カミヤ さん

福岡市でのレスキュー隊員歴や国際緊急救助隊員歴を持ち、数多くの災害現場で救助を行ってきた。

その他、今まで消防職員への研修や、企業や学校、福祉施設での講演を多く行っている。